

4 へ自分ならではの受け容れ方

- i 自分を疑うとき
- ii 揺らぐとき
- iii 不安なとき
- iv 悔むとき
- v 先がみえないとき
- vi 人を羨むとき
- vii 軽んじられたとき
- viii 理解されなかったとき
- ix 人の成功法をすすめられたとき
- x 前途を問われたとき
- xi 褒められたとき
- xii へ自分ならではのを受け容れる

離見の見にて見る所は、すなはち見所同心の見なり。
その時は、わが姿を見得するなり。

— 世阿弥 「風姿花伝」

不安なとき

「自分ならでは」が不安になるとすれば、人に受け入れられないと感じた時ではないでしょうか。自業をスタートさせたばかりの時は、たくさんの人に知ってもらおうと思うものです。

学生時代の先輩に誘われて出かけた懇親会。会社員たちの異業種交流会。前の席にすわった大手企業の営業マンが尋ねる、「何されているんですか」。簡単に説明する。「へえ」。わかったようなわからないような表情。隣から「お客さんはどのぐらいいらっしゃるんですか?」。「まだまだほんのわずかです」。そんなやりとりで酒宴が進んでいく。何か違う。胸騒ぎのようなものが少しずつ身にまとわりついてくる。帰り道も、翌日も、しばらく何かしら不安なムードに包まれる。いったいこれは何か。

行き場所を間違えたのです。自分でマネジメントしようとして、される人とは「文化」違います。初めてでも、自業を簡単に説明しただけで、「そうそう、これを簡単に説明したビジネスが必要なんですよ」と話が広がる場もある。

自業を進めて不安になったら、相手を間違っていないか考えてみましょう。社会を鳥瞰しましょう。活躍のフィールドは別にありそうです。

悔むとき

「自分ならでは」の道を究める、そう決めたことを悔やむとすれば、その道に進んでまだ間がないからでしょう。「こんなはずじゃなかった・・・」と、呆然とする。そこで、「自分ならでは」の道から外れますか? 止められますか?

もし外れたとしたら、独自性がなく、その他大勢の中に埋没します。止めるとすれば、葛藤がついてまわります。「自分ならでは」の働き方、生き方に舵をきった時、人生の大きな選択をした時のことを思い出してください。当時、何故そうしましたか。何を求めて今の道へ入ったのか。「自分ならでは」の道を止めて、未来の自分に誇れる未来を創ることができるか。

そう自分に問い、原点を確かめる機会です。悔やむときは、止めるか?と自分に尋ねて、そうすると答えたなら、それもよし。行動してみてもわかった自分の本心。「いや、戻らない」と答えたなら、「自分ならでは」の覚悟を決めた瞬間。

悔やむときは、まだ自業まもないとき。早々に悔やみ、本心を見定め、自分にとって意味ある生き方をする。行動するからこそ、そういう局面が訪れる。やはりじっとしては何も始まりません。

4. <自分ならではの>の受け容れ方

先がみえないとき

自業を進めて先がみえなくなる時というのは、二つの場合があるようです。

- 一、初めの志が成就しかけていない
- 二、志に見合った技能が未熟である

一、は、自業をスタートさせて一定の年数が経った時、おおよそ七年目から八年目あたり。二、はまだあまり間がない時によくある憂いです。どちらも立ちすくむような感覚になり、気持ちのよいものはありません。でも先がみえないと感じるから、問題意識も芽生えるわけ、憂鬱を忌み嫌うことはあります。その先に、先がみえてきます。

先が見えないように感じたら、現在の仕事をさらに昇華させるような新しい材料、学びを探し始めること。そう、新しい節目であることをまず意識する。信頼できる人に話すのもいいでしょう。自分が今、何を感じているかを、相手は親身に話を聞いてくれます。思わぬ情報を教えてくれる場合もあります。努力する姿は誰がみても好感の役立ち、信頼できる相手です。あれば、何かを怠ると、先がみえないだけなく、学びを怠ると、先がみえないだけなく、学

人を羨むとき

人にはあって、自分にはないモノ、コトに、人を羨む感情が生まれやすい。自分もそうありたいと思うだけでなく、ねたましく思う。「常用字解(白川静)によると、「羨」によだれを垂らしている「様子から、「羨む」になつたとあります。これは、あまり美しい姿とはいえません。

でも人を羨むのは人間的な感情、咄嗟の気持ち。一瞬は仕方ないこと。問題は、先です。心に欠乏感が陣取ったままでは、精神の糧を得られない。モンテニユが教えてくれるように、自分の心の動きを観察し、考えて、落とす、どこを掴み、自分の教育材料とする。そうすれば、俗にいう「人間が皮むける」。

「比較は他人とするのではなく、過去の自分とする」

ある創業塾の最終回に受講者のみなさんへ贈った言葉の一つです。自分が問われ、贈った言葉の場面は、繰り返してやってくる。その時のために、「われにかえる」誠めを書き表すの、いいでしょう。喜怒哀楽大勢の人の間にある、好調に舞い上がる。そこに生まれ、平常心に舞い上がる。それこそ、人の智慧。

4. <自分ならでは>の受け容れ方

軽んじられたとき

相手からは、何かしらというのには、相手の中
 とっては何かにしらぬというのには、相手の中
 で、自分を優越にしたいやうな要素がある
 いは、軽い基本になるよ、対等かつ丁寧
 ちら側にある。社会的なマナー。軽んじられ
 に接するのが社会的なマナー。軽んじられ
 て、ただ憤慨するのではなく、その理由を
 突きとめたいものです。その理由を

相手の人間的な器の小さなが、さうさせる
 のか、警戒心から意図的にか、さうしている
 か、単に誤解しているのか、さうしている
 く扱いたくなるよ、なものが、さうしている
 のか。有名なる「メラビアンの法則」による
 とプレゼンの効果は見た目の声、話し方
 左右すると、教えるは、相手が人間性
 題が、あったところ、は、相手が人間性
 や意図したところ、は、相手が人間性
 ないし、立ち入ること、は、相手が人間性
 らし、は、態度をかえ、いっつも、の姿勢
 を貫けばいい。

追って、この場面を親しい人に話してみ
 る。その感想や意見や努力が足らない、味
 する。仕事への研究や努力が足らない、味
 る。その感想や意見や努力が足らない、味
 がある。身だしなみや立ち振る舞いに雑さ
 し、へ自分ならでは、をよりよく引き出して
 いきましよう。

理解されなかつたとき

「そんな簡単にわかってたまりますかいな」
 わかってもらえないと溢しているのが、拍
 恥ずかしくなる。一撃。パッと目が開き、拍
 子抜けするほど、そりゃ、そうだ！

たしかに理解されない、受けとめられて
 いないと感ぜると、精神的なストレスにな
 ります。憂鬱になり、胸のつかえが
 とれない、嫌な気に包まれます。不甲斐な
 い自分を恨めしく、責めるよ、な感覚にも
 なるかもしれない。

しかし、多くと語ったからと言って、相手
 に受け入れられるとは限らないし、多くを
 語らなくて理解し合える人もいます。理解は
 うして、いないけど、値打ちはわかる。そうい
 う人もいます。

へ自分ならでは、の業で誰かのためにな
 る。その使命感がブレず、努力して、いれ
 ば、遅かれ早かれ、理解し許容する人た
 に出会います。観察と学びを怠らず、人の
 使えるものを創出する努力。その積み重ね
 が、独創性につながる。生みの苦しみはあり
 ますが、必ずカタチになります。

その過程を淡々と表し、伝えていく、そ
 の努力もまた、欠かせません。理解し合える
 人に出会うための責務です。

人の成功法をすすめられたとき

人はけっこう残酷なもので、そう簡単に理解できるはずもないのに、ああすればいい、こうすればいいと安易に助言する人がいます。

自業を始めて間もないとき、「なんで営業しないんですか、もっと売り込まないと！」と知人にハツパをかけられ、その気もないのに、ズルズルと乗ってしまっただけとあります。「持っているもの」とやっ

ていることがズレて、どこかチグハグ。これでは、自分ならではにはなりません。売り込みが様になり、違和感のない人は、人に言われる前にやっっているもの。

人の成功法は人のもの。学ぶことはして、真似てはいけません。どこかにズレが出て、これを見逃さないのも人。自分ならでは、程度の程度が見透かされます。もしも魔がさして、やっつて、失敗したと感じたなら、それも悪いことではありません。自分を知り確認することになり、一つの収穫。

「その方法が本当にわたしのためになると思えますか？」

安易に助言する相手にはこう切り返してみましよう。場の空気は一変するに違いありませんが、それぐらいいは受けてたいたいもの、人生をかけているのですから。

前途を問われたとき

人の未来について問うのは、ずいぶん立ち上ったことです。親や学校の先生、本当に親しい友人や知人、あるいは経営相談をしたコンサルタントが問うのは、そういう役目や関係だからよしとしまししょう。親しくもなく、基本的には対等な立場の人から、「これからどうするんですか？」などと尋ねられたら、余計なお世話ですか？と返したところ。「どうしまししょうかね」と受け流して、話題を変えましょう。

そうせず、真っ当に応じた方がいい場合もあります。親しくもなく、初対面でもいあるのに、直感的に何かしら話してもいいと思える相手。そういう人には素直に話してみよう。すると、思いがけないアイデアや視点を示してくれそうです。自分では漠然としたままなのに、行く末をリアルに語ってくれたりする。

自分ならでは、志向する人は、強情だけど素直

これは、と思えば、やけに素直に人の話を聞きいれ実行する。だからこそ自分ならでは、磨きがかかるというものです。強情だけど素直。否、強情だから素直。

自分の軸を備えること、それが強さと柔らかさのバランスをとるのです。

褒められたとき

お世辞を言う人はけっこういますが、心から褒めている場合はわかるものです。

「こういうことを、そう簡単にできる人はいません」

「この部分の文章は、本当に頭のいい人の書き方」

「それは天性のもの」

「そういう風にわかる人は稀」

「パッとみて、ただならぬ人という感じがする」

もし、このようなことを相手から真顔で言われたとすれば、気をよくしたままに終わってはいけません。特に自分では何気ないことに對して褒められたなら、頭に留め、あとで記録する時間をもつこと。褒められた内容について考え、書く。この時間と行為が大事です。観察の目を利かせ、自分ならでは、を紐解く機会ですから。

ちゃんと褒める人がいてくれたなら、そのこと自体、貴重だと思えます。自分では気づくにくい、へ自分ならでは、の具体的な才を示してくれるのですから。

心から褒められたと感じたとき、自分の中にひそむ宝ものを探し当てることになります。それをどうぞ逃さないように。

へ自分ならでは、を受け容れる

へ自分ならでは、をまずは自分自身が受け容れる。良いところもあれば悪いところもある。良いところをよく、悪いところを控えて生きる。そうすれば慎ましさが出てくるのではないでしょうか。

その上でへ自分ならでは、の仕事と生き方を探求していく。そうすれば傍目にも嫌味のない、自然な姿が醸し出されます。人と葛藤よりも自分との葛藤、たたかい。その簡単には人に受け入れられないへ自分ならでは、の考えややり方。それを承知で辿る自分の道。そこに清々しさがありません。

諦観。前向きな諦めと解釈しています。自分ではどうにもならない状況を恨めしく思うより、事実として受けとめると、その先に新しい展開、未来が拓けます。前向きな諦めは潔さに通じます。阿ず、拒まず、超然とかまえて、働き生きる。

どうしようもない状況をつくった張本人が自分自身という場合も少なくありません。人間、自分の性(ぎ)が、からはそう簡単に逃れられない。今ではそうわかったつもりですが、十年前にわかったと思ったことが、今また、まだまだわかっていなかった。たとわかれるのですから、またいざれ認識を新たにすることもありません。

へ自分ならでは、の探求も尽きません。